

たより

『美紗の会』 ニユース

第28号

平成十年六月二十五日

発行者
「美紗の会」
☎03-3441-2726
編集責任者
大久保 朋 子

「三味線のエロス」を終えて

西松 布 咏

秋田での日本文化デザイン
会議が五月二十九日から三日
間開催された。昨年十月美紗
の公演に照沼さんの応援
にかけて下さったデザイ
ナー浅葉克己氏の依頼で、四
年前の福岡会議以来二度目の
参加である。現在美紗の会会
員である照沼さんの入門は福
岡の講演がきっかけで、つく
づく人の世は「縁かいな」と
思う。

今回のテーマは「三美主義
—さあ世紀末—美をめぐる六
十のシンポジウムで構成され
講師はなんと百六十人の大所
帯！
我々の講演は、メディアセ
クシヤリティの浅葉コラム
「三味線のエロス—浮世絵の
世界」と題し最終日であった。
その日のために青い目の浮
世絵講師としてアメリカか
ら招かれたジョン・ソルト氏
と私、そして照沼さんは、秋
田出発二日前に打合せの為浅

葉事務所を訪れた。ちょうど
刷上ってきた大きな和紙に色
鮮やかで大胆な構図の歌麿描
く十二枚の春画に思わず一堂
歓声をあげた。まさに江戸の
隠微な男女の「コマ—」が、
ビジュアルな世界に動き出し
たかのような一瞬だった。
この十二枚の画の前でソル
ト氏が、浮世絵のスライドを
映写しながら講釈するが果た
して私は三味線でその世界を
よみがえらせることが、出来
るだろうか—ふと不安が胸を
よぎる。
かたや今回のテーマポス
ターを担当した浅葉氏のアダ
ムとイブをイメージした男女
の下半身をイチジクの葉で
覆ったポスターが、セクハラ
ではないかと秋田県内の女性
グループから抗議をうけテレ
ビや新聞で騒がれているとの
情報が入ってくる。その昔江
戸の浮世絵師歌麿も風俗を乱
した罪で手鎖の刑を受けたが

「我々四人もブタ箱にぶち込
まれるかもしれないよ」と
他人事のように言う浅葉氏の
顔を見ながら時代が変わって
も風俗問題は、いまだに変わ
らないことを痛感した。「な
んだか面白いことになってき
ましたね」と打合せの後とあ
るイタリアンレストランで、
四人は最後の晩餐よろしく赤
ワインで無事を祈った。
秋田飛行場からマイクローバ
スに乗り一路ホテルへ。三
美主義とは、美酒・美林・美
人であるが、窓から広がる緑
のじゅうたんになるほど美
林！と眼を奪われた。
ホテルから会場のアトリオ
ンまでは、お祭りのようにに
ざわいで、秋田名物の日本
酒・産物のコーナー店が、所
狭しと並び、秋田生まれの美
人竹久夢二描く「お葉展」が
開かれている。開会式は、三
枝成彰議長「性をぬきにし
て芸術の発展はないと思う。

心ゆくまであらゆる角度で語
り合おう！」と力強い言葉で
始まり、瀬戸内寂聴氏の基調
公演「源氏物語における愛」
を千人余りの観衆と共に楽し
んだ。二日目は、夕方からの夜
楽塾（酒場での懇談会）だけ
なので、会場へ行き、展覧会
やコラムを束の間観て廻った。
狭い会場は熱気にあふれ、
いくつものコラムが同時に各
部屋で行なわれているので、
どれにしようか迷ってしまう。
広場では有名人夫婦のトーク
番組があったり、銘酒の試飲
会や、妖しげな絵画や写真展
が：中でも面白かったのは、
山口椿氏の風刺画。今回の男
ばかりの七人の実行委員三枝
成彰氏・松岡正剛氏・中沢新
一氏らの似顔絵で下半身を女
にし、あたかも権力社会を
ファックしているような痛烈
なユーモアを感じた。セクハ
ラ物議があったことなど嘘の
ように大胆につつ込んだ討論
や表現に、秋田の土壌の大き
かさや勇気に、脱帽！と嬉し
く思った。

最終日の午後はいよ／＼わ
がコラムの登場。私と照沼さ
んは、加藤さんの着付で、浮
世絵美人よろしく着物姿。ソ
ルト氏も袴をつけた和服姿で
さつそうと登場。日立から駈
けつけて下さった方々を含む
百余名が、熱心に、ソルト氏
の流暢な日本語の解説に耳を
傾け、さまざまな浮世絵と共に
三味線と唄で、ある時は江
戸吉原の街へ、ある時は、客
と遊女の妖しく切ない廓の世
界へと案内していった。わが
美紗の会の照沼さんは、司会
役の傍ら三味線と唄で大活
躍！ 副議長として、セクハ
ラポスターデザイナーとして
大いに話題の主となった浅葉
氏も「僕がこのような話をす
ると単なるスケベ親父としか
思われませんが、ソルト氏の
上品な日本語で格調高い講義
となり無事に終えることが出
来嬉しいですよ」と、ユーモア
な口調でしめくくった。こう
して講演は幕を閉じたが、実
は忘れられないハプニングが
前夜あったのだ。
夜楽塾の座興に弾こうと三
味線を傍らに置いたのだが、
仲居さんの足にひっかかり棒
が折れてしまったのである。
講演を明日にひかえなんとか
せねばと八方手を尽くし地元
の役員の方々と加藤さんの尽
力でやっと民謡の家元の三味
線を借りることが出来たのは、
深夜。

ひとりホテルに戻り、三味
線の棒をなでてみると、なん
と太く重いこと！ たった一
晩でこの棒になじめるかと心
配で不安な一夜を過ごした。
三味線のエロスを聴衆にと
う伝えようかとさんざん思い
悩んだが、はからずもはじめ
て出逢った三味線を弾いたハ
プニングで、私自身三味線の
エロスを体感したこのたびの
講演であった。

新人紹介

山本 健氏

赤坂グループの幹事役と
して美紗の会のお世話をし
て下さっていた本郷公基氏
の後釜として推挙され入門
商船三井の秘書室長として
活躍されていまして、六月
の株主総会で監査役に就
任されました。
慶応時代は、ラグビー部
に籍を置きがっしりとした
体躯から小唄のイメージと
は、ほど遠いのですがご尊
父は謡や小唄をたしなみ、
なじみはあるとか？
久しぶりに体育会系小唄
が聞かれるのでは！と女性
陣は、大いに期待しており
ます。

百瀬靖彦氏

美紗の会赤坂グループの
先輩嘉本氏と友国氏の熱心
な勧誘でしぶ／＼入門なさ
れたとか。
現在協立電波サービスマ
社社長であられますが、若い
ころは、嘉本氏と一緒に乗
船し、優秀な通信局長とし
て名をはせ、耳の良さは人
一倍！
小唄のことは何も解らな
いので：と早くもレコード
店を歩き廻り小唄のCDを
探したとか。
美紗の会の男性陣追い越
されないように要注意です
ぞ！

傅田京子さん

松岡正剛氏の紹介で五月
に入門。目下早速購入した
三味線をかかえて熱心なお
けいこぶりでございます。
たまごつちで話題になっ
たパンダイビジュアルの
CG制作担当という時代の
最先端で活躍するキャリア
ウーマンですが、茶道は武
者小路流師範の腕前。のみ
ならず茶花・歌舞伎・能楽
道が大好きという日本古来の芸
道が大好きというまことに
有望で頼もしい新人登場で
ございます。

水無月に想うこと

本郷 公基

先日京都で高校の同窓会があり、その翌日三十三間堂と東寺を訪ねた。故郷京都の名刹は殆ど知っているつもりだが、その中身と存在価値をよく認識しているとは言えない。

一方東寺に教王護国寺は小学生の頃祖父母につれられて毎月二十一日の「弘法さん」の縁日に何度か来たことがある。広大だが薄汚いお寺と言う印象がある。日本の高僧の中で最も尊敬している空海がああ弘法さんであることを知り、東寺が真言密教にとって、高野山・醍醐寺と並んで重要な寺院なのでもう一度観ておきたいと思いつつ五十年ぶりに訪ねたが、この寺院はやはり観光都市京都の名刹にしては管理が悪く古くさくて汚かった。そしてまたま当日は骨董市が開かれていて幼頃の縁日思い出した。

しかし熟年になって日本の文化の良さが少しは判るようになり、興味をもって取り組む気持ちになってきた。特に西洋の文化との比較において、西洋画と日本画、西洋の教会建築と日本の寺院建築、洋楽と邦楽等を比べてとき日本文化のすばらしさや時には優位性を認識できるようになった。

三十三間堂に蓮華王院の千一体の観音様が居並ぶ壮麗さと荘厳さを観て、この時初めて本堂の中にはいったことに気がついた。京都に生まれながら三十三間堂を知らなかったのである。!!

三十四年前に將軍家光の寄進によって竣工したもので、高さ五十七Mもあり、この時代の建物では日本で最も高い塔だそうである。講堂の本尊大日如来は現在補修中で拝観できなかったが、金堂の薬師如来座像は素晴らしかった。金堂に入ったとたんに靈感を感じ、思わず薬師如来像に釘付けになった。胆石の手術をして半年もしない内に大阪に単身赴任するわが身をくぐれども気をつけるよう薬師如来の心遣いが伝わってきたように思えた。薬師如来の両側には日光菩薩と月光菩薩が居られ、医師である薬師如来を昼間は日光菩薩という看護婦さんが夜は月光菩薩という看護婦さんがついて居られるように思えた。

大阪には三十四年居ると思うがそのあいだに、京都を始め奈良など近畿地方の名刹を今一度訪ねて、自分の心の中にある日本人の良さを再発見していきたくて考えている。

華の会観賞記

川辺 紀恵

六月四日、国立小劇場にて第二十四回華の会が催された。この会は閑崎ひで女門下の方々が競演するものだが、文字通り全員が華のある美人ばかりである。我が布師匠の美声によってますます舞台が盛り上がる。

「今度、長崎で変わった唱歌を習った。後先は覚えなんだが、中の唱歌を忘れた…」という出だしで、最後は「かく浮世は面白や」で終わる。艶っぽい「ぐち」「黒髪」等と違った少しコミカルなもので地味にあるのだという認識を新たにしたい。

師匠は「忘れ唱歌」「三国」「黒髪」「ぐち」「縁の綱」に出演された。その中で「忘れ唱歌」という珍しい唄が印象的であった。

今回は来日中のジョンソルトさん、大阪勤務の決まった本郷さん達と一緒に、浮世絵のような世界を充分堪能した。

第一回 ニュアンスの会のお知らせ

毎年、江戸の三味線音楽や他ジャンルのミュージシャンとの共演を海外で行ってきた会主が久々日本でコンサートを開くことになりました。

ニュアンスとはフランス語が語源で色彩・音調・感情などの微妙な濃淡陰影・違いなどの意味。今回は、CD「シルクソウル」発売を記念し、多彩なゲストと共に伝統前衛という何がおこるか解らない楽しくしゃれたコンサートを企画しました。

・七月十八日(土)
日比谷公園内 松本楼

・六時半―八時 コンサート
八時―九時 カクテルパーティ

- ・ゲスト 藤富保男(詩人)、松岡正剛(編集工学研究所所長)、山口椿(文人・絵師・チェリスト)、若林淳(舞踏家)、ジョン・ソルト(詩人・ハイムインヌー主筆)
- ・チケット 一万円
- ・お問合せ 美紗の会事務局 (三七六四一六〇九六)

四月に怪我で入院された増田さんが、熱心なりハビリの甲斐あって、予定より一ヶ月も早く退院されました。正座も大丈夫とのこと。おめでとございます!!
美紗の会の少しでも役に立てればと、川辺さんから引き継いだ「たより」の編集ですが、師匠に頼りきりで、まことにさけない編集長です。楽しい紙面を作る様、何とかガンバリたいと思っておりますので、これからも取材に御協力下さい。(大久保)

編集後記

本郷公基氏
大阪に栄転

十三年にわたって美紗の会赤坂グループの幹事として活躍して下さった本郷氏が六月二十日より大阪の(株)名門大洋フェリー代表取締役会長に就任されました。
ご本人は「ようやく小唄の味が解ってきた時に、残念です。」とおっしゃっています。が、大阪は新幹線ひとつとびのキョリ。強力な女性陣のラブコールで、たび／＼、お稽古にいらして下さることを願っています。